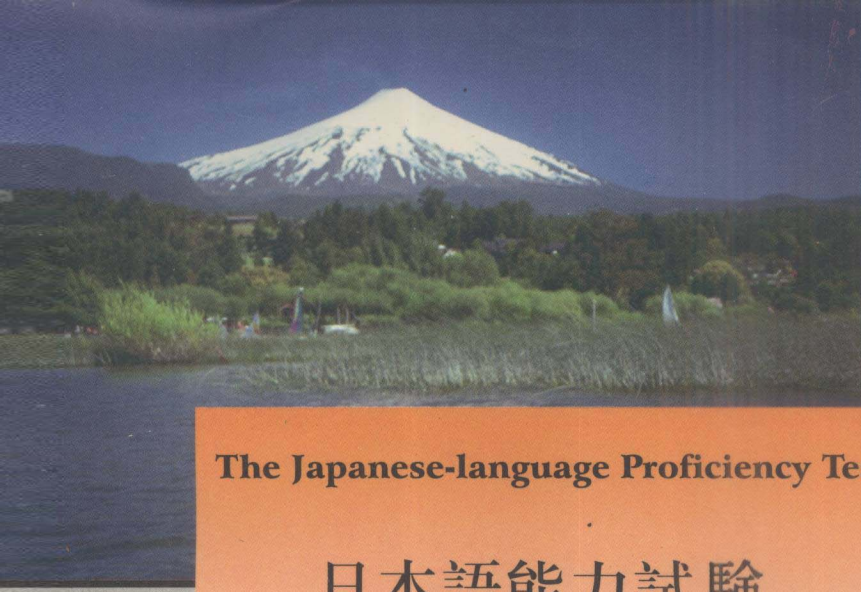




The Japanese-language Proficiency Test

日本語能力試験
一、二級綜合能力進階

編著 徐 靖 易洪艳
李彦娜 廖 程
审校 早水恒利

西安外语音像教材出版社

The Japanese-Language Proficiency Test

日本語能力試験

一、二級綜合能力進階

編著	徐 靖	易洪艷
	李彥娜	廖 程
審校	早水恒利	

西安外語音像教材出版社

日语能力试验

一、二级综合能力进阶

编著 徐 靖 易洪艳
李彦娜 廖 程

审校 早水恒利

西安外语音像教材出版社出版发行

(西安外国语学院内)

西安音乐学院印刷厂印刷

850×1168 毫米 1/32 6印张 140千字

1998年10月第1版 1998年10月第1次印刷

印数1—3,000册

陕内资图批字(98)108号

6.50元

前 言

近年来，日语教育的形势发展非常快，参加“日语能力考试”的人数也正迅速增加。这些都对“日语能力考试”的相应研究、开发和编写工作提出了新的要求。

众所周知，参加“日语能力考试”并达到“一级水平”，是留学生在日本攻读学位的先决条件，同时也是日语专业学习者检验自己日语水平最客观、最有效的方式。为了适应“日语能力考试”的发展，我们编写了此书，以满足广大日语学习者提高日语综合能力的需要。

本书的主要特点是在实践中有效地培养读者的日语能力。本书较全面地覆盖了“一、二级日语能力考试”的问题点。训练的内容包括“文字・語彙”、“文法・用語”、“読解”、“聴解”等四个部分。通过对本书的学习，不但能够全面地提高日语能力，而且可以使学习效果得到及时检验。

本书适于具有中级以上日语水平者使用。

在本书的编写过程中，得到了日语专家早水恒利先生、马永平副教授、时田绿子女士的热心指导和帮助，在此表示衷心的感谢。同时向参加此书录音的鷹野美和、伊藤三智夫、高木惠美等日本朋友一并致谢。

由于编者水平有限，难免有疏漏之处，敬请读者批评指正。

编 者

一九九八年八月

目 次

第一部分 文字・語彙 文法・用語 読解.....	(1)
新緑.....	(3)
憧憬	(15)
京 の 庭	(28)
目を閉じて、世界を優しく、見つめよう	(39)
人生の目標が定まれば強くなれる	(50)
お母さん、あれで本当に良かったの?	(62)
根っこにあるのはゆとり	(74)
女友たち	(86)
忘れられない場面	(99)
我が体験から——天は一物を与える.....	(109)
犯行者の名状し難い「怒り」と「憎悪」.....	(120)
思想の移植性について.....	(130)
第二部分 聴解.....	(143)
第三部分 正解.....	(165)

第一部分

文字・語彙

文法・用語

読 解

新 緑

白洲正子

武蔵野の雑木山に住んで四十年以上になる。もとはといえば、戦争中に疎開して、自給自足をしていたので、炭を焼くために、雑木林は不可欠のものだったのである。輪伐といって、毎年林の一部分を伐採し、五年でひと回りする。そのころには、最初に切った木が、成長しているというわけで、自然の循環は実にみごとに行われていた。今は炭を焼くこともなくなって、手持ちぶさたになったならやくぬぎは、野放図に大きくなり、毎年勢いのいい芽をふいて楽しませてくれる。

ひと口に新緑といっても、本当に美しいのは、生まれたばかりの柔らかい葉が露をふくんで、銀色に輝いている三、四日の間のことだろう。朝と夕方ではもう違って、みるみるうちに若葉となり、青葉になっていく。木漏れ日の中に、さまざまな野草を発見するのも①そのころである。野草は気まぐれだから、年によって咲いたり咲かなかったりする。今年は寒暖の差が激しかったのが幸いしてか、いたるところにすみれが群生していた。消えたと思っていたえびねらんが、じゅうたんのようにはびり咲いているのもうれしかったし、孤高を好むきんらんが、あちらに一つ、こちらに二つ、黄金の鈴をつけているのも可憐であった。

新緑の中でも、柿だけは他の雑木とは趣が違い、青葉になるのに日数がかかる。それだけ若葉の時期が長いというわけで、薄緑の葉が初夏の日光を通して光り輝いている景色ほど新鮮なもの

はない。

若葉して御目のしづくぬぐはばや

この有名な芭蕉の句も、柿若葉を見て、鑑真和上の暗黒の世界に思いをはせたのではなかったか。それというのも、ほとんど失明に近かった私は、去年の秋、手術をして、やっと片目だけはよく見えるようになった。その目に映る今年の新緑は、生まれて初めて見るもののよう美しく、特に柿の若葉はまぶしいくらい目にしみる。そこで、この句の「若葉」も、唐招提寺の辺りに多く見られる柿にちがいない、柿でなくてはならない、と直感したのであるが、若葉の露が、「御目のしづく」と響き合い、芭蕉の涙に融合していくあたり、^②明暗二つの境を表現してあますところがない。

柿若葉といえ、毎年その季節になると、私の家では「柿ずし」を作る。正しくは「柿の葉ずし」といい、谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」に作り方が書いてあったのが、いかにもおいしそうなのでまねてみた。酒で炊いたごはんの上に、さけの荒巻きを薄く切ってのせ、柿の葉で巻いたものを、箱に詰めてひと晩圧しておくだけだが、柿のほのかなおいに、酒の香が混じって、素朴でしかも上品な味がする。吉野の名産だから、潤一郎が「吉野葛」を書いていたころ、土地の人に習ったのであろう。吉野では、今はさばを使っているが、^③これはさけのほうかはるかにいい。

そのおすしを味わうたびに、私の心は「吉野葛」や「陰翳礼讃」を読んだころの昔にかえる。そして、食料には不足をしながら、あのころのほうが一般的にいて、味には今より敏感であったし、^④ある意味ではぜいたくな暮らしをしていたのではないかと思う。私はグルメなどという言葉信じないし、近ごろはやりの^⑤「食べ歩き」にも興味はない。

雑木林が新緑を謳歌しているころ、その傍らでは竹の葉が音

もなく散っている。散って、積もって、やがて肥やしとなるだろう。たけのこの春は、竹にとっての秋なのだ。これはどうすることもできない自然の摂理であるが、できることなら人間も、命の限り、力のすべてを子孫に伝えて、静かに散っていきたいものである。そう願ってはいるものの、自然のように美しくはいくまい。いや、明日のことなんかどうでもいい、ただ、今日のこの日を精いっぱい生きることができれば。——この輝かしい新緑の季節に、ひたすら思うのはそれだけである。

注：

- ① ^{しろすまさこ}白洲正子 1910(明治43)～ 随筆家。東京都生まれ。女子学習院初等部・ハートリッジ＝スクール(アメリカ合衆国)卒業。主な作品に「お能」「花と幽玄の世界」「かくれ里」「ものを創る」などがある。本文は1987(昭和62)年5月22日発行の「朝日新聞・夕刊」によった。
- ② 戦争中 ここでは太平洋戦争中のこと。
- ③ なら ブナ科の落葉高木。
- ④ くぬぎ ブナ科の落葉高木。
- ⑤ えびねらん ラン科の多年草。
- ⑥ きんらん ラン科の多年草。
- ⑦ ^{ばしょう}芭蕉 松尾芭蕉(1644～1694)俳人。本名^{むねふさ}宗房。その作品は発句・連句のほか紀行文「奥の細道」俳文「^{げんじゅうあんのか}幻住庵記」などがある。「若葉して……」は「^{おいこ}笈の小文」中の句。
- ⑧ ^{がんじんわじょう}鑑真和上 (687～763)中国唐代の僧。日本律宗の開祖。暴風・失明などの苦難をおして^{てんぴょう}753(天平勝宝5)年来朝

し、唐招提寺を創建した。

- ⑨谷崎潤一郎（1886～1965）小説家。主な小説に「春琴抄」「細雪」などがある。「^{ささめゆき}陰翳礼讃」は1933年、「吉野葛」は1931年発表の随筆。

- ⑩グルメ 食通。

文字・語彙

問題Ⅰ 次の文の下線をつけた言葉は、どう読みますか。同じ読み方の言葉を1、2、3、4から一つ選びなさい。

- (1) 雑木山に住んでいる農家は雑木で炭を焼いています。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. <u>木</u> 材 | 2. <u>土</u> 木 |
| 3. <u>木</u> 漏れ日 | 4. <u>木</u> 切れ |

- (2) あまり根を詰めて勉強したので、彼女は病気にかかりました。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. <u>積</u> もる | 2. <u>謹</u> む |
| 3. <u>染</u> める | 4. <u>支</u> える |

- (3) 彼女は魚屋でアルバイトをしているので、においが滲みて服がなまぐさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. <u>夢</u> みる | 2. <u>通</u> じる |
| 3. <u>刻</u> む | 4. <u>凍</u> みる |

- (4) 兵馬俑は世界中に名声を馳せて、世界の第八番目の奇跡だ

とされています。

1. 弾む

2. 払う

3. 吐く

4. 狙う

(5) この森を少なくとも五年おきに一回輪伐すべきです。

1. 三輪車

2. 指輪

3. 履歴

4. 緑茶

問題 II 次の文の下線をつけた言葉の二重線(====)の部分は、
どのような漢字を書きますか。同じ漢字を使うものを、
それぞれの1、2、3、4から一つ選びなさい。

(1) 日本列島は、かんだんの激しくない温和な気候だ。

1. 議事堂の近くのビルにばくだんが仕掛けられた。

2. キャンパスのあちらこちらのかだんには色とりどりの花
が咲き乱れている。

3. その町のだんぼう使用開始日は11月15日です。

4. 研究が一だんらくした。

(2) 戦争中、都市の人々はそかいを強いられた。

1. 語学の勉強はきそが大事だと言われている。

2. 輸入非加熱製剤によってエイズに感染した血友病患者ら
が国と製薬会社を相手どり、そしょうを起こした。

3. そしつはあるのだがやる気がないからだめだ。

4. 人口のかそに悩んだ政府はその対策に乗り出そうとし
ている。

(3) 永井荷風はここうの人と言われている。

1. 今の社会ではこどくな一人暮らしをしている人が増えている。
 2. あの奥さんはきれいで、なかなかこせいてきな人です。
 3. 久しぶりにこきょうの土を踏むと、涙がほろほろとこぼれてきた。
 4. 事実をこちょうして話してはいけません。
- (4) 中国は民族のだいゆうごうが期待されている。
1. 心によゆうがあれば、誰にでもやさしくできます。
 2. 戦場に赴き、兄はゆうかんに戦って国のために亡くなった。
 3. 98年のワールドカップでフランスチームはゆうしょうした。
 4. 彼は本当にゆうずうのきかない人で、しょうがないですよ。
- (5) 昔の人々はあらゆることを自然のせつりのままに、生活していた。
1. もっと快適に座るために、私は椅子の高さをちょうせつした。
 2. 健康を保つにはせつせいが第一だ。
 3. われわれにとって、今一番せつじつな問題は教育水準を高めることだ。
 4. 親父のせっきょうにはもうあきあきした。

文法・用語

問題 次の文の _____ の部分に入れるのに最も適当なものを1、2、3、4から一つ選びなさい。

(1) 彼は鈴木教授の指導の _____ で、卒業論文を書き上げた。

- | | |
|-------|-------|
| 1. した | 2. もと |
| 3. うえ | 4. なか |

(2) _____ いろいろな経験を積んだ人の話には重みがある。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. さいわい | 2. あいにく |
| 3. あいかわらず | 4. さすが |

(3) 毎年恋人と一緒に海外旅行ができるとは、うらやましい _____ ですね。

- | | |
|--------|--------|
| 1. かぎり | 2. ばかり |
| 3. ほど | 4. だけ |

(4) 一生懸命看病していた _____、父が亡くなった時はとてもショックだった。

- | | |
|--------|-------|
| 1. こそ | 2. ほど |
| 3. だけに | 4. なら |

(5) 大学を出た _____ 就職せずにぶらぶらしている人は「就職浪人」と呼ばれた。

- | | |
|-------|--------|
| 1. から | 2. ばかり |
|-------|--------|

3. うえに

4. ものの

(6) 7年ぶりに彼女に会ったところ、随分変わっていて_____しまった。

1. ふくれて

2. まぎれて

3. むらがって

4. まごついて

(7) あのように高名な先生に直接褒められて、光栄の_____で
ございます。

1. いたり

2. あたり

3. かぎり

4. いちばん

(8) ^{シーサンパンナ}西双版纳は景色がきれいであり、土地の人達は_____で海外から来た客に優しかった。

1. そぼく

2. たんちょう

3. ぶなん

4. かんそ

(9) この小さな町に移り住んで以来、田舎_____ののどかな生活を楽しんでいます。

1. だけでは

2. ならでは

3. なかでは

4. こそでは

(10) 余裕がある_____世界中を一人で旅してみたい。・

1. ものを

2. ものの

3. ところ

4. ものなら

(11) 友人を助けようと思えば助けられた_____彼は平気で見捨ててしまった。

1. ものの

2. ものを

3. ゆえに

4. ところで

(12) 年をとってから勉強するより、むしろ若い_____勉強したほうがいい。

1. 間

2. うちに

3. 期間

4. 頃

(13) ことここに_____は、どうすることもできない。

1. あたって

2. いたって

3. おいて

4. わたって

(14) 梅雨、_____6月から7月にかけての雨の多い季節は日本人の生活にとって大切である。

1. つまり

2. 要するに

3. そして

4. 結局

(15) 親切で注意してくれているのは分るが、やはり_____が痛い。

1. 目

2. 耳

3. 歯

4. 頭

(16) 遊んでばかりいたので、テストで痛い_____に合った。

1. 目

2. 耳

3. 歯

4. 頭

(17) 窓からごみを捨てるのはいけないことだが、目を_____やった。

- | | |
|---------|---------|
| 1. つぶって | 2. つぶして |
| 3. 閉じて | 4. 閉めて |

(18) 学生にとって、制服_____便利な服装はない。

- | | |
|--------|-------|
| 1. 程度 | 2. ほど |
| 3. ばかり | 4. 以上 |

(19) 学生時代のアルバムを_____と、友達の一人ひとりを思い出して懐かしい。

- | | |
|--------|--------|
| 1. しみる | 2. むしる |
| 3. とじる | 4. めくる |

(20) 雨が_____、すぐ晴れた。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 降ると思う | 2. 降るか思うと |
| 3. 降ったかと思うと | 4. 降ったと思う |

(21) このトマトは取立てだ。まだ食べてはいないが、おいしい_____だ。

- | | |
|-------|-------|
| 1. わけ | 2. べき |
| 3. はず | 4. こと |

(22) 動かぬ証拠が挙がったが、_____彼女が犯人とは信じられない。

- | | |
|---------|--------|
| 1. それに | 2. しかも |
| 3. それでも | 4. それで |

(23) 祖父は老いて_____意気盛んだ。

- | | |
|-------|--------|
| 1. なお | 2. しかも |
|-------|--------|